

【緑地を楽しむ本】

『算数ずかん』

小川真理子 原田佐和子 森裕美子著、のだよしこ絵

あかね書房



この本の主人公は10歳の女の子、みらいとテラノ星から来たテラノたちです。彼らが地球で開かれている宇宙博覧会に参加しながら、色々なことを体験するという内容

です。つまり、小学生むきに書かれていますが、大人が読んででも面白いです。

私たちが朝起きてから寝るまでに、何と多くの数字と接していることでしょう！ 時間や距離や食べる量などなど。

図鑑の世界に分け入っているうちに、数字の不思議さや魅力に取りつかれることと思います。例

えば、身長と比較では見方によって、身長が異なることが分かります。円の中心を見つける方法もへーです。西緑地の木の幹の周りを測ると、その木の直径が分かりますね。折り紙で角度のことを考えることもできます。

私が一番びっくりしたのは、数の位取りの単位です。万、億、兆、京、「がい」くらいまでは知っていましたが、その先9つ、そして那由他、不可思議、無量大数まであり、無量大数は 10^{68} だそうです！

印象的なのは「数学は宇宙のことばだ」という言葉です。そう、算数や数学は世界中の人と同じ答えを出せるのですね。算数で世界の人とコミュニケーションできるのはすごいことです。（斎藤好子）